

尾瀬国立公園

「新尾瀬沼ビジターセンター建設工事」の記録

令和3年2月 福島県南会津建設事務所 建築住宅課



「新尾瀬沼ビジターセンター建設工事」の記録

目次

- 01. はじめに
- 02. 工事概要
- 03. 過酷な現場条件
 - 03-1. 車両が入れない現場
 - 03-2. 尾瀬国立公園内という
現場環境
- 04. 新尾瀬沼VCの特徴
- 05. 工事記録
- 06. おわりに

本資料は、約4年の歳月を掛け、令和2年11月に完成した「新尾瀬沼ビジターセンター建設工事」の軌跡を記録したものです。尾瀬国立公園という過酷な現場条件下での工事の苦勞を感じ取っていただければ幸いです。



pic.1 新尾瀬沼ビジターセンター

本施設は来春の展示工事(環境省発注)が完了次第、開所となる予定です。

01. はじめに (1)

尾瀬国立公園は、福島県・栃木県・群馬県・新潟県の4つの県にまたがる自然豊かな国立公園です。【fig.1】公園内は、尾瀬ヶ原、尾瀬沼、燧ヶ岳等の多くの自然に囲まれており、希少な動植物が数多く生息しています。【pic.2-6】

工事現場となる尾瀬沼までは、福島県檜枝岐村の御池駐車場からシャトルバスで約15分かけて沼山峠まで行き、峠からは登山道や大江湿原を徒歩で片道約45分の道のりです。【fig.2】

尾瀬沼ビジターセンター(以下、尾瀬沼VC)は、尾瀬沼湖畔にあり尾瀬沼集団施設地区で主要な施設の1つとなっています。【pic.7】



fig.1 尾瀬国立公園位置図



fig.2 福島県側から尾瀬国立公園へ入るルート



pic.2 大江湿原



pic.5 燧ヶ岳



pic.6 ニッコウキスゲ



pic.3 尾瀬沼(燧ヶ岳山頂より)



pic.4 燧ヶ岳(組鞍)



pic.7 尾瀬沼集団施設群

01. はじめに (2)

福島県では、平成27年度から、事業者である環境省より事業の施工委任を受けて福島県側で主要な活動拠点である尾瀬沼園地周辺施設の整備を尾瀬沼集団施設地区再整備計画※1(以下:再整備計画)に基づき進めています。

尾瀬沼集団施設地区再整備計画は、

- ① 拠点性のある施設や広場の再整備
- ② 園地内周遊回路の整備
- ③ 尾瀬沼湖畔眺望の充実化

の主に3つのコンセプトを軸に構成されています。

具体的には、尾瀬沼VCの建替に加え、園地内の拠点となる中央広場の整備、園地内を周遊できるような木道の整備、尾瀬沼湖畔の眺望を一望できるようなテラスの整備等を行う計画となっています。【fig.3】

これまで、本工事のほか、尾瀬沼を一望できる木道の整備、テラスの整備が完了しており、今後は環境省保護官事務所の改修、現尾瀬沼VCの解体、中央広場の整備等が予定されています。【pic.8～12】

※1 平成25年度に環境省によって策定された尾瀬沼集団施設地区の魅力と利便性をいっそう高めるための計画。



pic.8 尾瀬沼V C (R 2年完成)



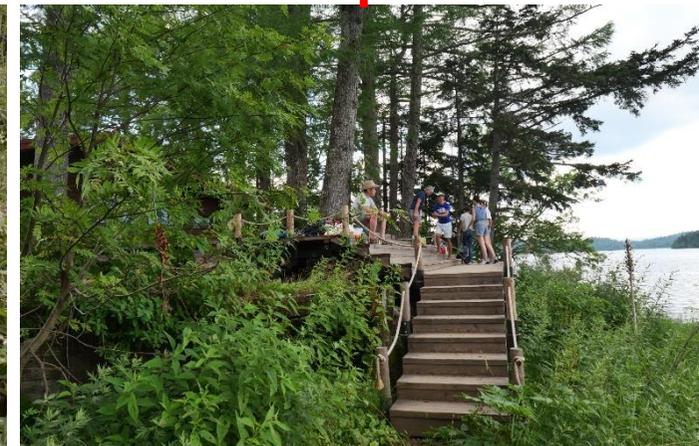
pic.9 第2 公衆便所浄化槽改修 (H 2 9年完成)



pic.10 第一テラス (H 2 9年完成)



pic.11 木道 (H 2 9年完成)



pic.12 第二テラス (R元年完成)

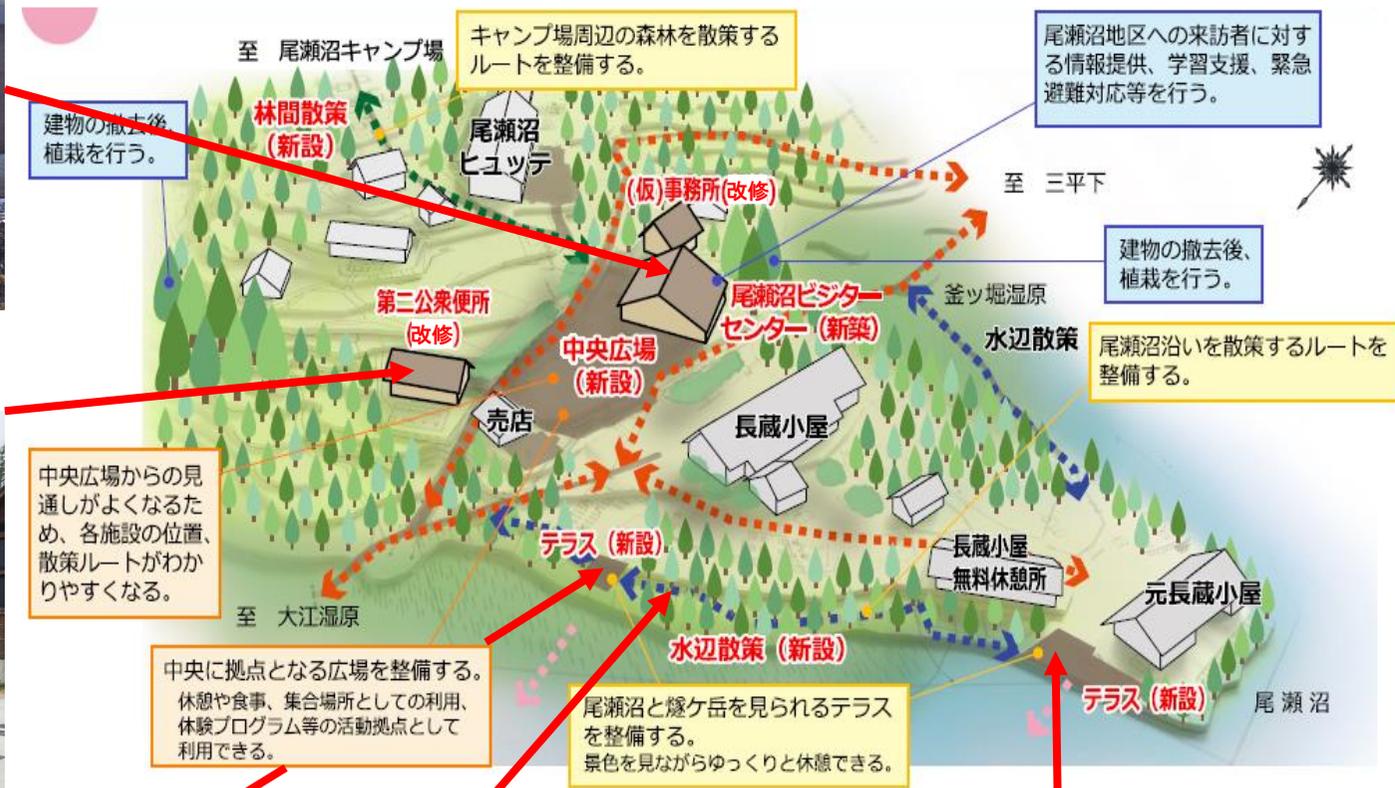


fig.3 再整備計画概要

02. 工事概要

工事の概要は下表のとおりです。【fig.4】

主要用途	博物展示施設	
所在地	南会津郡檜枝岐村字燧ヶ岳1番地(尾瀬沼湖畔)	
構造・階数	鉄骨造・2階建て	
延べ面積	560.62㎡	
建築面積	515.42㎡	
総工事費	約12億円	
設計	株式会社 グリーンシグマ	
発注	福島県生活環境部自然保護課	
工事監理	福島県南会津建設事務所建築住宅課	
施工	造成・建築	南総建 株式会社
	電気設備	中野電工 株式会社
	機械設備	ハッ橋設備 株式会社

fig.4 新尾瀬沼VC工事概要

03. 過酷な現場条件 (1)

03-1. 車両が入れない現場

前述のとおり、尾瀬の入山口である沼山峠までは車両で行けますが、現場までは車両が通行することが出来ません。したがって、現場作業員は、沼山峠から現場までの起伏の大きい山道を徒歩で約45分かけて往復するか、山小屋に宿泊しなければいけません。【pic.13】

また、資材や重機の搬出入も車両で出来ないため、全てヘリコプターで行います。【pic.14】

ヘリコプターで輸送する際には、

- ① 重量制限があり大型のヘリコプターでも最大2トンまでしか輸送することが出来ない
- ② ヘリ業者は全国的に少なく手配がつきにくい上に、天候が悪いと輸送が出来ない
- ③ 荷下ろしの際に発生するヘリによる風(ダウンウォッシュ)の影響で、現場近くに下ろすことが出来ない。

などの制約があり、計画どおり工程や施工が進まないことが多く、変更が生じた際にはその都度、現場代理人と打ち合わせ、解決策を検討しながら工事を進めました。



pic.13 現場までの山道



pic.14 ヘリコプター輸送状況

03. 過酷な現場条件

03-2. 尾瀬国立公園内という現場環境

尾瀬沼は、標高が約1,700mと非常に高く、1年間の半分は雪で覆われているため、現場で作業が出来る期間は、5月上旬から10月下旬までの6ヶ月程です。【pic.15-16】

また、現場に着手する際には、残雪(約2m)の除雪をしてからでなければ、ヘリの荷下ろしや作業に着手することが出来ず、通常では10ヶ月程度で完了する規模の工事ですが、約4年と大変多くの時間を要しました。

国立公園内には希少な動植物が多く存在し、それらの絶滅や減少を防ぐためにも外来種子が付いている恐れのある土や砂利を持ち込むことが出来ません。そのため、現場で使用する砂利は洗浄するなど、適切な管理が必要です。



pic.15 5月下旬の現場着手時の状況



pic.16 10月中旬の現場の状況

04. 新尾瀬沼VCの特徴

新尾瀬沼VCは、外装に木材を使用し、既存施設に合わせた色調とするなど、国立公園にふさわしい外観としております。内装にも福島県産の杉材をふんだんに使用し、木のぬくもりを感じられるデザインとなっております。

また、テラスには登山靴の洗い場やザックの置き場所等も整備し、登山客が使用しやすい施設となっております。

【fig.5】【pic.17-20】

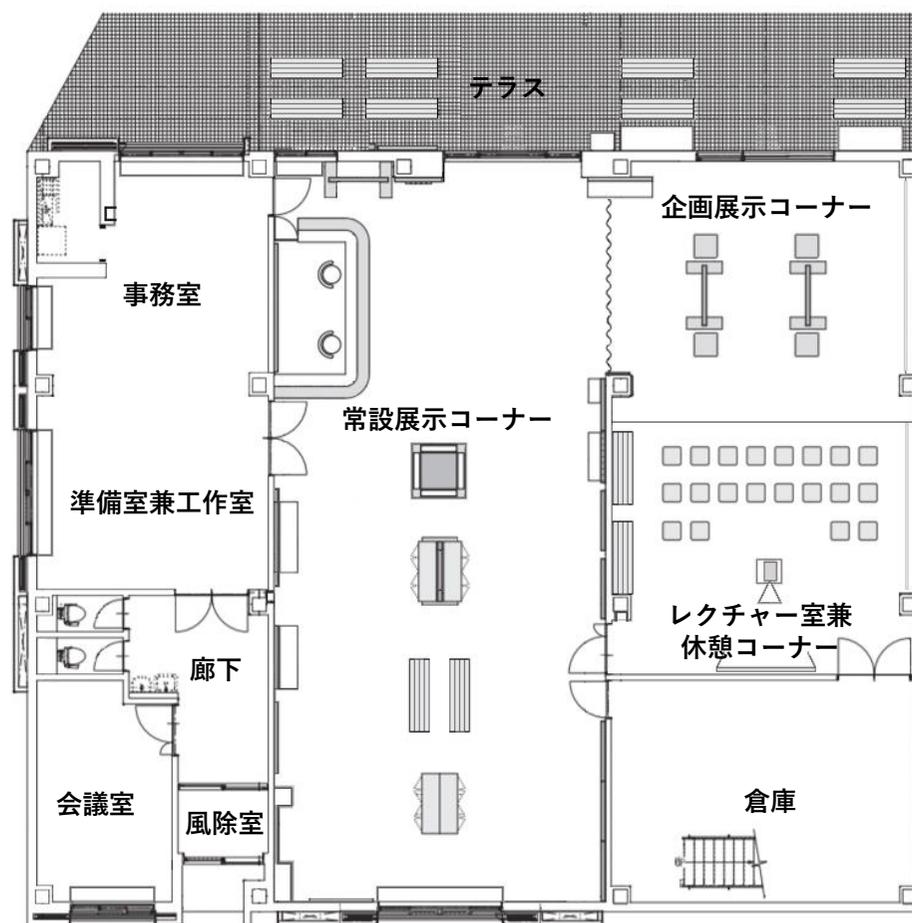


fig.5 新尾瀬沼VC平面図



pic.17 外観（西面）（雪囲後）



pic.18 外観（東面）



pic.19 常設展示コーナー



pic.20 テラス

05. 工事記録

当事務所が工事監理した造成から完成までの写真を掲載します。
尾瀬国立公園という過酷な条件の中での現場の苦勞を感じ取っていただければ幸いです。

- ① 平成29年8月末の状況(造成工事中) 【pic.21】
- ② 平成29年9月末の状況(根切工事中) 【pic.22】
- ③ 平成30年5月末の状況(均しコンクリート工事中) 【pic.23】
- ④ 平成30年6月末の状況(基礎アンカー設置工事中) 【pic.24】
- ⑤ 平成30年7月末の状況(基礎工事中) 【pic.25】
- ⑥ 平成30年9月初旬の状況(基礎工事中) 【pic.26】
- ⑦ 令和元年7月末の状況(躯体工事中) 【pic.27】
- ⑧ 令和元年10月初旬の状況(内部土間配筋工事中) 【pic.28】
- ⑨ 令和2年6月初旬の状況(テラス土間コンクリート工事中) 【pic.29】
- ⑩ 令和2年9月初旬の状況(内装工事中) 【pic.30】
- ⑪ 令和2年10月初旬の状況(内装工事中) 【pic.31】



pic.21 平成29年8月末の状況（造成工事中）



pic.22 平成29年9月末の状況（根切工事中）



pic.23 平成30年5月末の状況 (均しコンクリート工事中)



pic.24 平成30年6月末の状況（基礎アンカー設置工事中）



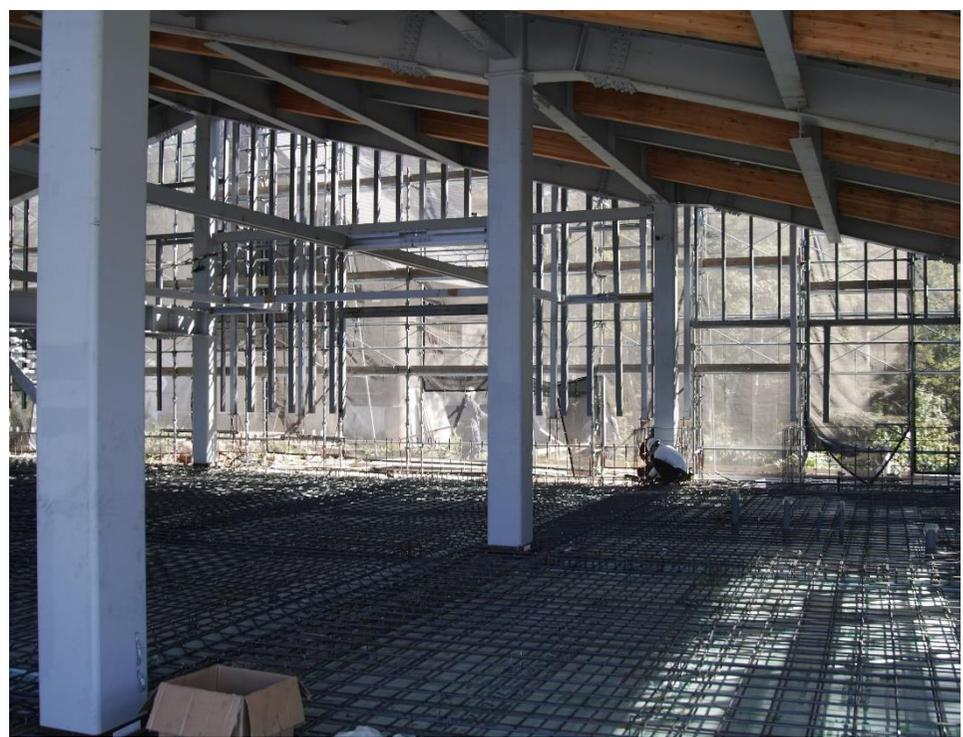
pic.25 平成30年7月末の状況（基礎工事中）



pic.26 平成30年9月初旬の状況（基礎工事中）



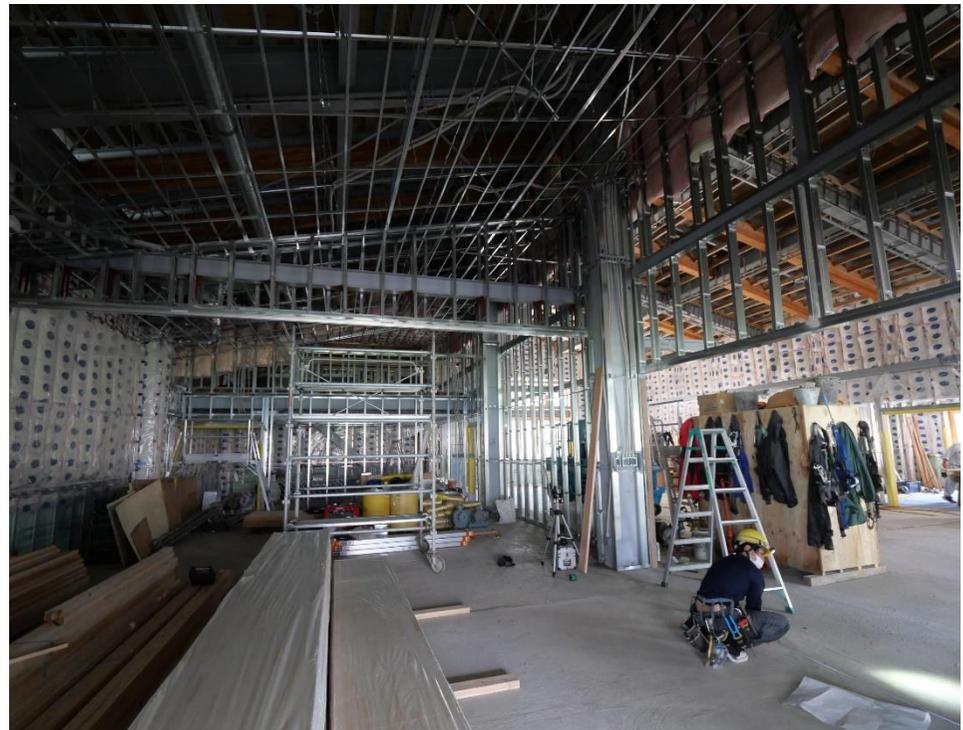
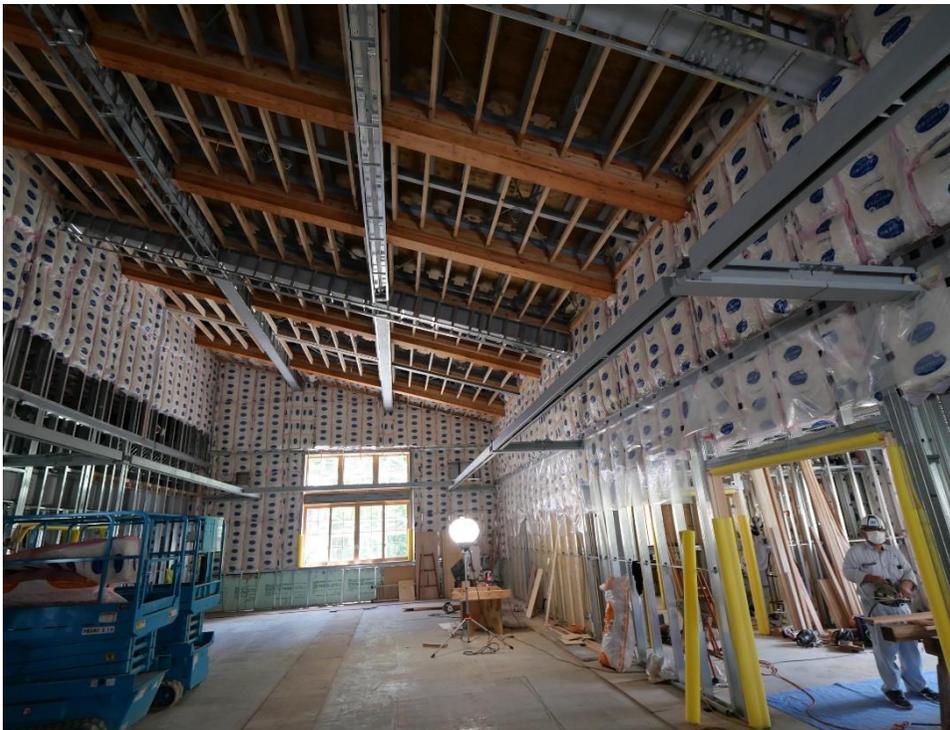
pic.27 令和元年7月末の状況（躯体工事中）



pic.28 令和元年10月初旬の状況（内部土間配筋工事中）



pic.29 令和2年6月初旬の状況（テラス土間コンクリート工事中）



pic.30 令和2年9月初旬の状況（内装工事中）



pic.31 令和2年10月初旬の状況（内装工事中）

06. おわりに

この度、新尾瀬沼VCは完成しましたが、今後も再整備計画完了に向けた工事が予定されております。今回工事を担当させていただいた者として、多くの方に尾瀬を訪れていただき尾瀬沼VCを利用していただけるとを願っております。

最後になりますが、現場代理人をはじめ、工事に関わっていただいた作業員の皆様や関係者の皆様に深く感謝申し上げます。

